

生涯学習 安心して安全な道路環境の整備
村野 由紀子

Q 道路の整備状況、過去に道路整備の計画を立てて、現在中断している場所、なぜ中断されているのか、現状の課題について

A 町道は約800路線、自動車も通行できる道路は、全体の7割、舗装率は約46%、山間地の町道が多く、ハイキング道まがいの町道もある。今後は、整備の優先順位を決めて、国の補助制度を活用しながら順次着手していく。

現在中断している事業については、ほとんどが関係する地権者の了解が得られず中断している。長期に間を置かず交渉していく必要性を感じている。

Q 計画が中断されている間は、地権者とはどのような交渉をされたのか、計画の実行性、事業の縮小、廃止等も含めてもう一度見直し、方向性を示して行くべきではないか

A 継続的な交渉ができていなかった。深く反省している。それぞれの状況に合わせて検証し、方向性を示していく。計画どおり進められるよう努力していく。

Q 町道整備における歩道設置の考え方について

A 高齢者や障がい者、子どもたちにも配慮した安全で人にやさしい道路整備を推進していく。

効果は有効で全国的に広まっている。しかし、コストや耐久性の面など欠点もある。学校としましては、保護者、交通安全団体、警察、教育委員会と合同で点検、実施している。より安全な通学路の確保へ努めていきたい。



カラ舗装

総務 箱根町職員の職員研修と勤務成績の評定について
川端 祥介

Q 任命権者が行う職員研修の目標、研修指針、計画について、また研修の内容や効果、研修の基本方針について

A 町では、研修に関する基本方針を、平成17年度に策定、職員に必要な意識、知識、能力や研修の方向性などを設定し、毎年度ごとに職員研修計画書を策定している。町民にとって親しみやすく信頼でき、一人前の立派な職員になる、このような職員を育成することが職員研修の最大の目標。研修内容は、自己啓発、職場内研修、職場外研修の3本柱から成っており、結果、所属する部署の職務にどのように貢献させていくのかということについて、多くの職員が目標として掲げている。今後、一人前の立派な箱根の職員となるべく人材の育成をしていくことが、町長である私の責務である。

Q 勤務成績の評定について

A 勤務評定で大切な視点とは、自治体の最終目標である住民サービスの向上に資するにはどうすればよいか、人材育成をどのように考え、連動した評価をどのように考えるのか、これらを常に意識することであろうと思っている。

Q 町長は、本年3期12年間、職員の能力の開発とか、人材育成に力をつけて来られた。この秋の4期目を目指し箱根町発展や職員の資質向上について町政を担当していかれるのか、その思い、決意について

A 優れた職員の支えがあったの12年間だった。もし住民の信を問うという事になれば、甘んじて受け、引き続き町政を担うべき機会を与えていただければというふうに思っている。

Q 地区の避難所、特に学校施設等に取り残される可能性のある学童、児童の



箱根町役場

総務 防災対策について
勝俣 剛一

Q 土砂ダムや土石流の起きる可能性のある危険箇所及びその整備対策について

A 小田原土木センターの調査等により、現時点で、町内100箇所の溪流を土砂災害警戒区域（イエローゾーン）に指定し、さらにそのうちの一部として75箇所に土砂災害特別警戒区域（レッドゾーン）を指定した。同センターでは、レッドゾーンを対象に工事を行うことにより、順次、危険箇所の解消に向けて、整備を進めている。一方箱根町としての取り組みは、土砂災害に対する住民の方への情報提供として、土砂災害ハザードマップを作成した。回覧により、配布して十分な備えをお願いするとともに、万一の場合の適切な避難行動等をお願いしていくものである。

Q 食糧の備蓄について

A 備蓄食糧については、避難者と帰宅困難者の分として、現在、五日目ご飯やお粥などのアルファ米とクラッカー、合わせて2万5,000食分を用意している。しかし、災害の規模によつては不足することも考えられるので、各家庭に対しては、日ごろより3日分の食糧等の確保をお願いしている。箱根の森小学校と箱根中学校においては孤立化も含めて、児童生徒が自宅に帰宅できずに、学校にとどまる可能性があることから、児童生徒の分も含めて対応している。

Q 災害により孤立した学校施設等に取り残される可能性のある学童、児童の

ハザードマップ

ハザードマップ



ハザードマップ